



こうだん りょうまでん
星空講談「龍馬伝」にちなんで
 たんじょう じ かがや すいせい
 ～龍馬誕生時に輝いていた彗星～

来たる12月4日(土)、まるちたいけんドームで**星空講談「龍馬伝」**が開催されます。講談師・田ノ中星之助先生による講談をプラネタリウムの星空が引き立てます。もちろん、時期の星空の話も交えてのイベントです。

坂本龍馬が生まれた**天保6年**(1835年)末から翌年にかけて空には明るい彗星が輝いていました。それはハレー彗星です。太古の昔から76年周期で現

れ、イギリスの天文学者エドモンド・ハリーの出現予報が的中したことから「ハリーの彗星(Halley's Comet)」と呼ばれるようになりました。日本では1980年代からなぜかローマ字読みの「ハレー彗星」と呼ばれるようになり、今ではそれが定着しています。

ハレー彗星が前回太陽に近づいたのは1986年2月10日のことです。その前が1910年4月、その前が1835年11月なので、この彗星は龍馬誕生から現在までに太陽をわずか2周しか回っていません。宇宙のスケールで考えると、江戸時代はほんの少し前といった感じでしょうか。次にハレー彗星が太陽(すなわち地球に)近づくのは2061年7月のことです。40年後のことですが、これを読まれている多くの方々が夜空にハレー彗星のすがたを見ることになるでしょう。日本からも好条件で見られると予想されています。



龍馬誕生の日 1836年1月3日(グレゴリオ暦)の朝さそり座に輝いていたハレー彗星。

AstroArts 社製 Stealla Navigator10 で作図。